

|                   |                                                      |                                              |                |      |     |
|-------------------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------|------|-----|
| 大項目               | 4                                                    | 「地理総合」の授業法と小中高校の接続教育                         |                |      |     |
| 中項目               | 4-1                                                  | 「地理総合」におけるアクティブ・ラーニング                        |                |      |     |
| 小項目               | 4-1-2                                                | 身近な地域を知ることから「地理」の扉を開き地域づくりへ参画する              |                |      |     |
| 細項目<br>(発問)       | 4-1-2-2<br>身近な<br>地域                                 | 自分たちを育んだ地元の地域はどのような特性があるか?<br>どのような変遷を経ているか? |                |      |     |
| 作成者名              | 鈴木映司                                                 | 作成・修正日                                       | 2017/2021/2023 | Ver. | 1.2 |
| キーワード<br>5~10 個程度 | 地元の地域 アクティブ・ラーニング 実践例 日本地理 自然地理 日本地誌 ICT の活用<br>地理総合 |                                              |                |      |     |

## 発問と説明

### (1) フィールドワークが課題

学校現場では、さまざまな制約があります。フィールドワークを導入することは現場ではなかなか難しい、ものです。しかし、自分たちの足元に広がる地域の特性をしっかりと理解させた上で、地理の学びをスタートさせたい。この様な場合を想定して、教室内で1時間でできるフィールドワークを地図を活用しながら展開する事例をあげてみました。

### (2) 「地理総合」の現場における視点と教育的意義。

#### ① 「人間関係の構築」

「地理総合」は高校1年次に履修します。高校生全員が地図帳を持つ事になります。しかしスタート時点での知識は中学校までのもので、その知識を再構築することと、そこまでの学習内容との接続が大きなテーマとなるでしょう。一般に徒歩圏内で通う中学校とは違い、通学圏が拡大する高校段階では背景にさまざまな「地域」で育まれた「個性」との出会いが待っています。昨今は学校生活への適応で困難な生徒も増加しています。ここでの出会いは「プチ異文化体験」でもあるととらえ、高校生活がスタートしたばかりの新入生の安心安全な学習集団づくりという点に着目しました。この点で「必修科目」としての「地理総合」の役割は軽視できないとものです。ここに「対話的な学び」を組み込んでおくことは、教科の学習という枠だけでなく、その後の学校生活全般に関わる基本的対人関係の構築にも結びつく事でしょう。

#### ② 「最後の地域学習の場」となります。

大半の生徒にとって自分を育ててきた地域のことを学ぶのは高校までです。「地理探究」を選択しなければ地域を学び、地理を学ぶ最初で最後の場となるかも知れません。まず取り組ませたい最初の活動は、自分の通学ルートを「辿ること」です、これにより空間における「繋がり」を認識させます。次は地図から地域の特性を発見し地図上に他地域とは異なる特性や境界を認識し「囲むこと」を体験させます。この活動は空間における「広がり」の認識に繋がるでしょう。

#### ③ 地図を活用して「地域の歴史」を辿り身近な地域から「空間」と「時間」を繋げる。

「過去の地図」と「最新の地図」を比較することによって「地域の変遷」も読み取ることができます。例えば学校周辺や自分を育ててきた地域を見比べてその変遷と社会的背景を繋げることで時間軸での理解と結びつきます。さらに他地域の比較や防災、地域課題発見といった発展学習へのきっかけにもなるでしょう。自分の足元の地域から、国家、世界というグローバルな視点の軸足を育むことができます。これらの認識は新しい時代に求められている行動力に繋がっていくことでしょう。

#### ④ 「地域」の差異は「地域学習」の出発点となる。

自分を育ててきた知識の「地のもつ理屈」を理解し自らの背景にある「地域」と学校の位置する「地域」、まずその二点を読み取り、さらにそれを言葉やイメージとしてクラスメートに伝える活動は、他地域に住む人々や世界の人々に対しての「組織的記述」として後世に伝える活動の第一歩となります。



図1 地図帳を比較する。写真は帝国書院「新詳高等地図」  
撮影：鈴木映司

## 「今昔マップ」を活用して最新地図画像と旧地形図の画像を比較してみる。



「今昔マップ」  
<http://ktgis.net/kjmapw/>

### Mission

地図を比較して学校の周囲2kmの範囲で起こった変化について  
各年代別に観察し「発見したこと」と「それに対するコメント」  
(現状・良い点・問題点・対策・感想など)を記入して提出。

図2 今昔マップを活用する。撮影：鈴木映司

### ⑤カリキュラム・マネジメントからの視点も持つておく。

「地理総合」を新入生全員が学ぶということは高等学校における「地歴・公民」の学習の枠に留まらず、生徒達の「共通言語」ベースになります。教科横断的な視点で捉えれば、その後の高校での学び全てに影響していきます。各学校のスクールベースドカリキュラムディベロップメント(SBCD)の思想でカリキュラムマネジメントをデザインすることが全国各地の活性化に繋がるそんな未来になって欲しいものです。

### (3)「接続が大きなテーマ」

**①まず「接続の基本」として教師は「中学校」の教科書を見ておきたい。できれば子供達にも中学校の教科書を持参させたい。最初の授業で小中学校の知識をいったんひっくり返して再構成する様な仕掛けを持ちたい。**

例えば沖縄県の範囲と北海道を中学校の1/400 万分の1、高校1/500 万分の1の地図でトレーシングペーパーまたはGISで比較させる。**【図1】**(東西南北距離の測定でも良い)「北海道と沖縄県はどっちが広いか?」そして「沖縄県」と「自分の住んでいる都道府県」の面積比較・距離比較などさせてみる。さらに視点を世界に向けてヨーロッパ各国と比較する。世界を学びながら自分が足元に置いている「地元地域」にも目を向ける。今まで学んできたことが「そうだったのか!」と意味づけられる「メタ認知」からスタート。

### ②「トッピング」の手法

多くの内容が教科書に盛り込まれているので地域に根ざした内容を頻繁に取り入れる事は難しい。学習内容にそって時々年間で10トピック程度で良いので「地元地域」の視点を入れておくの良いのではないだろうか。そうすることによって、地域に根ざす事で教科を複眼で見る事ができる。地域の「事実」を見つめ、教科書と比較していくことからそれぞれの「課題」に気づく。そこから課題を発見し、理想・目標との差をイメージすることが主体的な学習に繋がるのではないだろうか。

### (4)授業実践例

#### ①ペアワークでの発見

Mission1

問い「北海道」と「沖縄県」どちらが広い?

仮説を立て自分の考えをメモする。

Mission2

隣の人と意見交換する。(ペアワーク)

Mission3

地図帳を持ち寄って「沖縄県」のページと「北海道」のページを比較して、発見したことをメモする。

**【図1】**

Mission4

各自「発見したこと」をメモする。

#### ②「新旧地図比較」(ジグソー法)

Mission1

問い「地図を比較して学校の周囲2kmの範囲で起こった変化について各年代別に観察し「発見したこと」と「それに対するコメント」しよう。→「今昔マップ」等を参照して**【図2】**年代ごとにクラス内を班分けして班ごとにその年代のみ調べて発見したことを色別の付箋等のカードにメモする。**【図3】**まず自分の考えをメモしてグループ内でシェアする。(エキスパートグループ)

Mission2

各年代ごとのグループ(エキスパートグループ)を混在させ新しいグループ(ジグソーグループ)をつくって発見したことを話し合う。さらに気がついたことを色別の付箋等のカードにメモする。

Mission3

黒板や模造紙に年代ごとに発見したことを書いたカード(付箋)を張り付け全体でシェアする。

Mission4

各自「発見した変化」をメモする。**【図4】**

## 発見したことを「loilo note for schoolのカード」で提出。

- ①紙の地図の比較(口白カード)
- 「今昔マップ」より
- ②1894～1915年(口赤カード)
- ③1928～1945年(口緑カード)
- ④1972～1982年(口黄色カード)
- ⑤1988～2008年(口青カード)

ここではICT(「今昔マップ」「loilo Note」)を使っていますが、環境によっては「紙の古地図」や「付箋」での授業も可能です。



発見したことを「LOILO NOTE FOR SCHOOLのカード」で提出しよう。

地図を比較して学校の周辺3kmの範囲で起こった変化について①～⑤の年代別に身分分けして観察し、色別カードに見出したこととそれに対するコメント(観察・気づき・問題点・対策・感想など)を記入して提出しない。

- ①紙の地図の比較(口白カード)
- ②1894～1915年(口赤カード)
- ③1928～1945年(口緑カード)
- ④1972～1982年(口黄色カード)
- ⑤1988～2008年(口青カード)



図 3

エキスパート活動[

撮影:鈴木映司

ロイロノート【参照 url 1】

## 生徒達の発見!(例)

### ③1928～1945年(口緑カード)

- ・病院が市役所になっている。×2
- ・市役所だったところに病院があった。
- ・役所と病院が移動している。
- ・高校の近くに病院があった。
- ・町役場が消えた。
- ・南北の道ができた。
- ・駅北の立体交差ができた。
- ・地元の史跡は動いていない。
- ・河川に土手が造られた。
- ・水田が四角に区切られて整備された。
- ・高校は同じ場所にあるが「中学」と書いてある。
- ・高校があるところに中学校がある。
- ・駅と高校のある村が違う。
- ・ため池のかたちが違う。
- ・〇〇村だった。
- ・家の近くに今はなくなった神社がある。
- ・当時はなかった電車が今は通っている。
- ・ため池が今より小さい。

### ④1972～1982年(口黄色カード)

- ・病院は消えたけど市役所もない。×2
- ・田んぼが四角くなった。
- ・ニュータウンの原型がこの頃にできた。

### ⑤1988～2008年(口青カード)

- ・小学校の裏に病院があった。×2
- ・町役場が今の場所になった。
- ・家が増えた。
- ・田んぼだったところの一部が畑になっている。



図 4

発見した変化

撮影:鈴木映司

文章のページ

参照 URL (2023 年 2 月参照確認)

参照 url 1 ロイロノート <https://n.loilo.tv/ja/LNScase83>

#### 参考文献

林仁大 鈴木映司編(2021) 『アクティブ・ラーニング実践集 地理』、二宮書店

鈴木映司 (2022) 高校地理の授業における ICT 活用の事例-「広げる」・「深める」・「身に付ける」場面での工  
地理科学, 77- 3, 171-178

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/chirikagaku/77/3/77\\_171/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/chirikagaku/77/3/77_171/_article/-char/ja/) (全文ダウンロードするには、地理科学の購読者番号が必要、

